

10 音声出力型汎用コミュニケーションエイドを用いたコミュニケーション支援 —ことばクリニックの事例より—

○青木さつき, 渡辺紗江子

明倫短期大学附属歯科診療所ことばクリニック

keywords : VOCA, コミュニケーション支援, VCAN/1A, 言語聴覚士

はじめに

言語聴覚士の役割は、コミュニケーションという広い見地に立って、言語障害を持つ方々を支援することである。音声表出に障害のある方の支援方法のひとつに音声出力型コミュニケーションエイド (VOCA: Voice Output Communication Aids) の使用がある。知的障害のある子どものコミュニケーション支援では、子どもの発達レベル、障害の種別、生活・教育環境などに応じた細かな支援が必要であるため、ことばクリニックでは、地域の多くの専門家からなる支援チームに参加し、各々の子どもに合わせて柔軟にカスタマイズできる音声出力型の汎用コミュニケーションエイド・VCAN/1Aの開発に協力してきた。

ことばクリニックでの個別の言語聴覚療法と共にVCAN/1Aを使用することで、子どもがどのように変化したかに着目し、VCAN/1Aを用いたコミュニケーション支援の効果について報告する。

事例1

高1男児。知的障害。VCAN/1A使用歴3年。学校での活動(司会・あいさつ・要求)から開始し、使用場面、登録語彙とも拡大。現在は常に携帯して使用。

- ・初めて会う人ともコミュニケーションがとれるようになり、活動の場が広がった。
- ・理解語彙年齢が上がった。
- ・音声表出は変化がみられていない。

事例2

中3男児。自閉症・知的障害。VCAN/1A使用歴1年3カ月。家庭でのあいさつから開始し、学校と放課後の活動の一部の場面に拡大。

- ・活動の場が広がった。
- ・情緒が安定した。

- ・要求が増え、音声での要求も出てきた。

事例3

幼稚園年長組男児。非定型広汎性発達障害。VCAN/1Aは入学前の8カ月間のみ使用。3語文の表出と音韻意識をあげる目的で使用。

- ・3語文の表出が可能になった。
- ・子音が脱落するものの、音声でコミュニケーションを取ることが増えた。
- ・50音表を用いて伝えることができるようになった。
- ・構音訓練を開始できる状態に至った。

まとめ

VCAN/1Aは、単に音声表出の代替となっただけでなく、使用することで、コミュニケーション意欲が増し、言語能力が向上した。これはVCAN/1Aは子どもに合わせてカスタマイズできるため、各々の子どものレベルや状態に適したものを作成することができ、さらに子どもの発達に合わせてVCAN/1Aも進化し、常に最適な教材になりうるからである。

また、事例によっては音声表出にも変化がみられ、構音の発達にも良い影響を及ぼした。

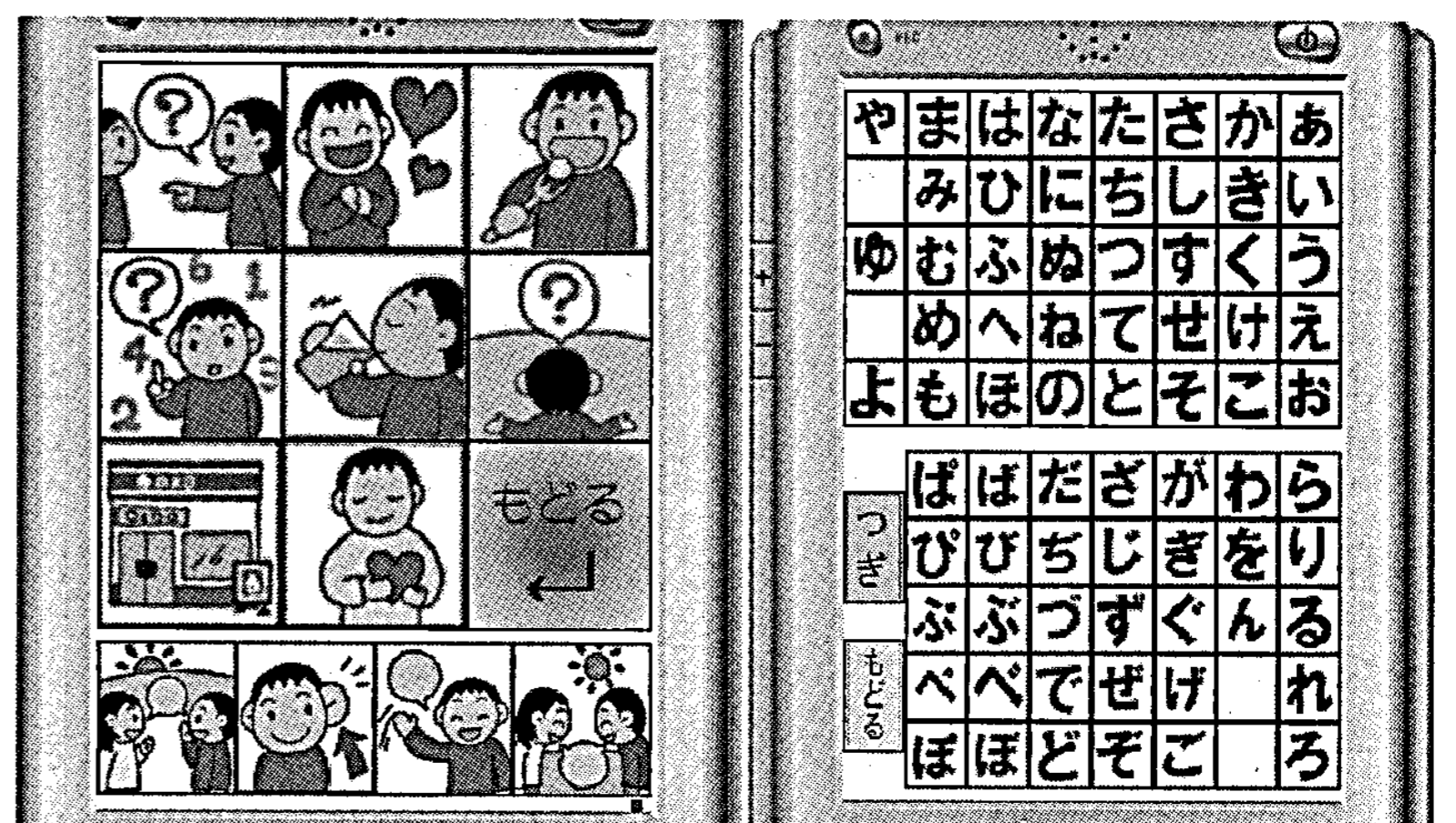


図1 事例1と事例3のVCAN/1A